

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2023 年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習会場等について

- (1) 練習はプログラム記載の指定された会場で、別紙の練習会場使用日程に従い実施すること。
- (2) 本競技場（デンカビッグスワンスタジアム）内での練習は競技役員、補助競技場（デンカスワンフィールド）については、ウォームアップ場系の指示に従うこと。特に、投てき練習については、引率者等の付き添いのもと事故防止に努め、安全に留意すること。
- (3) 本競技場及び補助競技場でのチューブを用いた牽引走やメディシンボール、ミニハードル、ラダー等の用具を使用しての練習は禁止する。
- (4) 本競技場及び補助競技場ともに芝生内でのウォーミングアップは禁止とする。ただし、補助競技場における投てき練習は、指定時間内のみ認める。ただし、投てき用具の貸し出しは行わない。

【練習会場ごとの注意事項と開閉場時間】 ～詳細は練習会場使用日程を参照～

(1) デンカビッグスワンスタジアム(本競技場)

- ① 開閉場時刻 ※会場設営を優先し、練習を制限される時間がある。

【開場時刻】

8月25日（金）・12:00～16:15

※開会式で一時中断

8月26日（土） ・7:00～9:30

8月27日（日） ・7:00～9:00

【閉場時刻】

・開会式終了後～18:00 まで使用可能

・競技終了後～18:00 まで使用可能

・閉会式終了後～16:00 まで使用可能

- ② 走幅跳はホームストレート側の跳躍ピット（1ピットのみ）（3日間）
- ③ 走高跳は8月25日・26日の2日間のみ。（Bゾーン）
- ④ 男子棒高跳は、8月25日（金）の棒高跳びマット等の設営終了後、練習可能（12:00～18:00）。
競技当日7:00～9:30まで練習可能。（バックストレート側）
- ⑤ 男子三段跳は本競技場での練習は不可。デンカスワンフィールド（補助競技場）のみ可。
- ⑥ やり投げは助走路の確認のみ(投てき物を持たない)とする（3日間）。（Aゾーン）
- ⑦ 砲丸投げはサークルの確認のみ(投てき物を持たない)とする（3日間）。（Bゾーン）
- ⑧ レーンの使用は、下記の通りとする。なお、逆送は禁止する。

レーン	種 目
周回1～2レーン	中・長距離主にスピード練習
周回3～9レーン	短距離・リレー（3～8レーン） 男子400mH（第1コーナーからバックストレート：9レーン）
ホームストレート 3～6レーン	短距離
ホームストレート 7～9レーン	7レーン：100mH 8・9レーン：110mH

(2) デンカスワンフィールド（補助競技場）

① 開閉場時刻

	【開場時刻】	【閉場時刻】
8月25日（金）	12：00～	18：00
8月26日（土）	7:00～	18：00
8月27日（日）	7:00～	16：00

② 砲丸投は使用可とする。やり投げと円盤投げに関しては時間調整をして実施する。

③ レーンの使用は、下記の通りとする。なお、逆走は禁止する。

レーン	種 目
周回1・2レーン	中・長距離主にスピード練習
周回3～8レーン	短距離・リレー（3～7レーン） 400mH（第1コーナーからバックストレート：8レーン）
ホームストレート 3～5レーン	短距離
ホームストレート 6～8レーン	6レーン：100mH 7～8レーン：110mH

④ 投てき競技（円盤投げ）に合わせて使用レーンの制限される時間帯がある。

(3) 雨天練習場

① 雨天時のみの使用とする。使用可能になる際はアナウンスする。

② 雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。

③ 雨天練習場へは、地下通路を通り、第3ゲート側の入口より入場すること。

④ シート等を敷いて独占的な使用を禁止する。

⑤ ウォーキング・ジョギング等のペースの遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、デンカスワンフィールド（補助競技場）等で行うこと。

⑥ ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。

⑦ ハードル・ミニハードル等は使用できない(リレーのバトンを除く)。

⑧ 砂場は使用できない。

(4) その他

① 芝生内の練習（ウォーミングアップ、クーリングダウン等のランニング）は禁止（本競技場、補助競技場ともに）する。

② 投てき練習（やり投げおよび円盤投げ）は時間を指定して認める（練習会場使用日程表）。
ただし、指定された時間以外は芝生内の投てき練習は禁止する。

③ 芝生内は競技に係わる競技者や審判以外の立ち入りも禁止する。

④ 選手・付添い者は、競技会場、練習会場並びに招集場付近での日傘の使用を禁止する。

1. 招集について

(1) 招集所は、第4ゲート側に設ける。出場者は補助競技場から招集所へ移動して点呼を受ける。

(2) 招集開始時刻（点呼開始時刻）及び招集完了時刻（移動開始時刻）は、競技開始時刻を基準とし、種目別招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程表を参照のこと。

(3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。

(4) 招集の手順

- ① 競技者は、前記(2)に示した招集開始時刻に招集所で待機し、最終確認を受けること。その際、アスリートビブス（リレー種目は競技者4人のユニフォーム）・競技用スパイク（靴）・衣類・持ち物等商標の点検を受けること。
- ② ユニフォームおよび携行品の商標については、日本陸上競技連盟制定の「競技会における広告および展示物に関する規程」に従うこと。規程に抵触している場合は、是正を求めるので従うこと。
- ③ 招集完了後、審判員の誘導で競技場所に移動する。
- ④ ビデオ・ラジオ・CD・トランシーバー・携帯電話もしくは類似の機器等を競技場内に持ち込むことができない。(TR6.3.2)
- ⑤ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
- ⑥ 招集は本人が点呼を受けること。ただし、他の種目に出場している場合のみ代理を認める。
- ⑦ 他種目と兼ねて同時に競技する競技者は、競技者係及びその種目の審判員に申し出て、競技に支障のないようにする。なお、当該競技者でトラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後ただちにフィールド種目の競技場所に移動し、担当審判員に申し出ること。また、フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前、担当審判員にその旨を申し出ること。(TR4.3 TR25.19)
- ⑧ リレー種目について
 - i. リレーオーダー用紙は学校受付時の封筒に入っているものを使用すること。
 - ii. リレーオーダー用紙に必要事項を記入し、当該種目1組の招集完了時刻の1時間前までに、競技者係(招集所)に提出すること (7:30より受付可能)。
 - iii. リレーオーダー用紙を提出した後は、大会医務員の判断がない限り変更は認められない(提出後の怪我等は除く)。変更を希望する場合は、本部から『リレーオーダー変更届』を受け取り、医務員の判断を受ける。変更が認められた場合のみ、『リレーオーダー変更届』を招集所の競技者係に提出する。なお、変更は出場選手のみであり、走順を再編成することはできない。
- ⑨ 出場種目を欠場する場合は、招集完了時刻30分前までに競技者係へ口頭で申し出ること。
※欠場届の書類を提出する必要はない。

2. アスリートビブス及び腰ナンバー標識について (TR5.7)

- (1) アスリートビブスは、主催者が用意したそのままの大きさのもの（横24cm×縦16cm）をユニフォームの胸部と背部につけること。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部のみでよい。また、トラック競技出場者は、写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、右腰のやや後方につけること。リレー競技については4×100mRは第4走者のみ右腰やや後方に、4×400mRは第2・第3・第4走者ともに右腰やや後方につけること。(TR5.10)
- (2) 男子1500m、男子5000m、男子3000mSC、女子3000mについては、胸背部ともにプログラム記載の左側に示された番号と同数字の胸用レーンナンバーを使用する。招集時に配布する。その際、プログラム記載の各自のアスリートビブスを持参すること。

3. 競技場への入退場について(図参照)

- (1) 入退場は、競技役員の指示に従うこと。
- (2) トラック種目の衣類運搬は行わない。よって本人が出走した地点へ戻る。ただし、メインスタンド下通路(大会運営側)は、競技者は通行できない。第1・第4ゲートから退場すること。
- (3) フィールド種目の競技者は、競技終了後、審判員の指示により退場する。
- (4) 入賞者は、審判員及び係員の誘導で入賞者控え場所に移動し、そこで待機し、表彰係の指示により行動する。

4. 選手の抽選ならびに番組編成について

- (1) トラック競技の予選のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の決勝については、主催者がルールに則り、組み合わせ及びレーン順を決定する。フィールド競技(走高跳・棒高跳を除く)の決勝については、3回の試技で上位8人を選出し、記録した成績の低い順に、後3回の試技をする。トラック競技の決勝のレーン順は、大型映像装置(スクリーン)及び速報サイトより発表する。(TR20)
- (3) トラック競技は原則として写真判定(0.001秒)の記録順によって決勝進出者を決定する。着順で決める最後の1枠が同着であった場合は、プラスアルファの1枠を減ずる。プラスアルファの最後の1枠を決めるにあたり同成績者がいる場合、レーンに余裕のある場合には決勝に進むことができる。レーンに余裕がない場合は、同成績者または代理人によって抽選する。
- (4) 抽選が必要となった場合は、該当競技者へアナウンスにより連絡し、大会本部において当該競技者、または代理人による抽選を行う。なお、アナウンス後20分経過しても当該競技者あるいは代理人が来なかった場合は、主催者が代行する。
- (5) タイムレース決勝において、同成績者が出た場合は、同順位とする。

5. 競技について

- (1) 競技場内には、当該種目出場の競技者並びに役員(審判員及び補助員)以外は、立ち入ることができない。
- (2) トラック競技のスタートにおいては、一度の不正スタートで該当競技者を失格とする。
- (3) トラック競技のスタートにおいて、「On Your Marks」あるいは「Set」の合図後に音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害した競技者には、審判長が警告(イエローカードもしくはレッドカード)を与える。なお、今大会期間中に同一種目において二度の規則違反があった場合は、当該種目のみを失格とする。
- (4) セパレートレーンで行うトラック競技では、欠場者のレーンはそのまま空ける。
- (5) 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- (6) トラック競技では、すべて写真判定装置(全自動電気計時)を使用する。
- (7) トラック競技では、棄権等により出場者が9名以下になった場合、予選をなくして決勝時に行うものとする。
- (8) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても本競技会のリレーまたは他の種目に申し込んである競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。最初のラ

ウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代できる。また、リレー競技に出場するチームは、同一のユニフォームを着用する。(TR5.1 TR24.10) ユニフォームに関して色やデザインが同様で同一のチームと判別可能であれば、形状が異なる衣類を着用してもよい (例：セパレートとランニングシャツなど)。

- (9) 4×100mR の第2・第3・第4走者は、自チームが用意する最大 50mm×400mm の粘着テープ (ガムテープは除く) をマーカーとして 1カ所使用することができる (競技終了後は、チームで回収すること)。
- (10) 4×400mR の第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ通過順に競技役員の指示に従い内側より並んで待機する。その後、この順序を変えてはならない。コーナートップの地点は、200m スタート地点内側に設置された黄旗で示される。
- (11) 男子 5000m は、グループスタートとする。
- (12) フィールド競技は、走高跳を除いて主催者が用意したマーカーを置くことができる。跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側 (走高跳では助走路内) に2カ所置くことができる。サークルから行う投てき競技では、各競技者の試技中に一時的に、マーカーを1カ所だけ置くことができる。そのマーカーは、サークルの直後あるいはサークルに接して置くこと。使用することができるマーカーは、競技役員が現地で渡す。そのマーカー以外は使用してはならない。使用したマーカーは、競技終了後各自で回収すること。
- (13) フィールド競技の試技時間は、制限時間告知器で表示し、黄色旗で残り 15 秒を知らせる。
- (14) フィールド競技における競技場内での練習は、担当審判員の指示により行う。公式練習は2回とする。投てき種目は1投1計で実施。
- (15) 棒高跳に出場する競技者は、支柱を自分の希望する位置に移動することができる。ただし、希望する支柱の位置を予め『支柱移動申込用紙』に記入して、現地の当該審判員に届ける。公式練習は、ゴムバーとする。
- (16) 男子三段跳の踏切板は、11mとする。
- (17) 円盤投げの競技は、補助競技場 (スワンフィールド) で実施する。補助競技場における投てきゲージ (円盤投げ競技) はコーチングエリアを設けないが、ゲージ付近での場所取りを禁止する。
- (18) 競技者に対する競技場内での助力は禁止とする。「コーチングエリア」は特に設けないため、助言については、TR6.4 を特に留意すること。よって、スタンドからの助言については競技運営ならびに他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認めるものとする。
- (19) 助力に関しては、特に以下の項目に注意が必要である。(TR6.4)
 - (ア) フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域の外にいる者によって録画されたそれ以前の試技の映像を見ることは認められる。(ただし、録画再生機器や録画映像を競技区域内に持ち込むことは認められない。)(TR6.4.5)
 - (イ) 指定された場所で、審判長が認めた場合に渡す帽子、水分・氷、靴や衣類などは認められる。(審判員を通して行うこと)(TR6.4.6)
 - (ウ) ビデオ等による助言は認められるが、競技者が機器の操作をすること、競技者が視聴のために勝手に当該競技エリアから離脱すること、助言者からの文章による連絡は認められない。
 - (エ) 走幅跳、三段跳の踏み切り板付近では、自校の選手の試技が終了したら次の学校に場所を譲るよう配慮する。
- (20) 競技中における助力は「日本陸上競技連盟競技規則 TR6」に従い規制される。これに抵触の場合は

審判長から注意、勧告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。

(21) 記録掲示は行わない。大型映像装置（スクリーン）及び速報サイトで確認すること。

(22) 競技に関する提出書類は、下記のとおりとする。

提出書類	配布場所	提出締切時刻	提出場所
プログラム訂正用紙	学校受付時の封筒内	訂正ある種目の招集完了時刻 1 時間前	TIC
リレーオーダー用紙 ※該当校のみ	学校受付時の封筒内	1 組目招集完了時刻 1 時間前	招集所・競技者係
リレーオーダー変更届	本部	招集完了時刻	招集所・競技者係
支柱移動申込用紙	学校受付時の封筒内 ※該当校のみ	招集所から移動して現地到着後直ちに提出	現地・当該審判員
抗議申し立て（口頭）	TIC	予選：15 分・決勝：30 分	
上訴申立書（文書）	TIC		大会総務

6. 走高跳および棒高跳のバーの上げ方について（天候等の状況により変更する場合もある。）

(1) バーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、以下のとおりとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	以降
男子走高跳	1m70/1m85	1m75	1m80	1m85	1m90	1m93	3cm 刻み
女子走高跳	1m30/1m50	1m35	1m40	1m45	1m48	1m51	3cm 刻み
男子棒高跳	3m30/4m00	3m40	3m50	3m60	3m70	3m80	10cm 刻み

(2) 優勝決定戦におけるバーの上げ下げは、走高跳で 2 cm、棒高跳で 5 cm 単位とする。

(3) 優勝が決まった後にバーをあげる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

(4) 状況によっては審判長の判断によりバーの上げ方を変更する場合がある。

7. 競技用具について

(1) 競技に使用する用器具は、棒高跳用「ポール」以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし、投てき用器具については、通知した競技場備え付けの投てき用具リストに無いもの及び、2 個以下のものに限り、当日検査の上使用を認める。

(2) 希望者は 7:30～競技開始 1 時間前までにスタジアム第 4 ゲート付近の TIC で検査を行い、検定に合格したものに限り使用を認める。これは、出場者全員で共有できるものとする。なお、借り上げた用具が破損しても責任を負わない。返却は担当競技役員の指示に従うこと。

(3) 投てき練習として割り当てられた時間帯での練習は、各自が用意したものを使用すること。

(4) 練習用の個人の用具は、競技中、競技場内に持ち込んではいならない。

(5) 競技場に備え付けの投てき用具は、プログラム記載のとおりである。

8. 競技用靴について

(1) スパイクのピンの数は 11 本以内で、長さは 9 mm を超えてはならない。また、走高跳及びやり投では、12 mm を超えてはならない。さらに、直径は先端が 4 mm 以内でなければならない。

- (2) 競技で使用するシューズ（スパイク、ランニングシューズ含む）の靴底の厚さは以下の表に記載された物でなければならない。(TR5.2)

種目	フィールド種目 (除く三段跳)	三段跳	800m未満のトラック種目 (ハードル種目を含む)	800m以上のトラック種目 (障害物競走を含む)
最大の厚さ	20mm	25mm	20mm	25mm

- (3) 検査が必要と競技役員が判断したものに限り検査を行う。必要に応じて、競技役員が競技用靴を競技前、競技中または競技後に検査することもある。規格に適合しないシューズについては適合シューズへの履き替えを指導する。適合シューズ以外では出場できない。

9. 抗議と上訴について (TR8)

- (1) 競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、その競技の正式通告後（大型映像装置表示終了時刻を基準とする）、次ラウンドが行われる種目は15分以内、それ以外は30分以内に、競技者自身または代理人が、TICを通じて審判長に対して口頭で申し出なければならない。
- (2) 口頭での抗議に対して、審判長の裁定に不服としてさらに上訴する場合は、その競技者に代わる責任者（顧問または監督）が預託金10,000円を添えて『上訴申立書』を、本大会総務を通してジュリーに提出されなければならない。なお、この預託金は、抗議が受け入れなかった場合は没収される。
- (3) 抗議や上訴をした場合、その時間、抗議者はTIC(スタジアム正面第4ゲート付近)で待機すること。抗議担当総務員により抗議者控室（個室）へ誘導する。

10. 表彰について

- (1) 各種目の1位から3位の競技者には賞状とメダルを、4位から8位の競技者には賞状を授与する。入賞者（代理可）は、競技終了後直ちに表彰を行うので、正面中央ホールの表彰者控え所に集合し、表彰係の指示に従うこと。
- (2) 表彰時の服装は、原則、チームウェア等（競技用とウォーミングアップ用の衣類どちらでもよい）を着用。Tシャツ着用も可とする。下半身はウォームアップ用衣類（各高専のジャージ）が望ましい。なお、衣類の商標（ロゴ）に関して日本陸上競技連盟の規定に基づき、競技役員から指摘を受けた場合は、その指示に従うこと。
- (3) 学校対抗における男女総合優勝校には、賞状および文部科学大臣杯を授与し、2位から6位には賞状を授与する。

11. 各校の待機場所(別紙：シート張り参照)

- (1) 各学校の待機場所(本競技場)はスタンド1層とする。別紙参照（デンカビッグスワンスタジアムコンコース上のシート張りについて）のこと。特に、以下の場所は待機場所として使用できない。

【禁止場所】

- ・消火栓前
- ・客席コンコース通路
- ・身障者席
- ・エレベーター前
- ・トイレ前

- ・ A E D設置場所前
 - ・ その他、来場者動線としている箇所
- (2) シートは使用後（1日ごと）にはがし、持ち帰ること。
 - (3) 養生テープでの場所取りは可能。ただし、ガムテープの使用は禁止。
 - (4) 大型テント（1.5間×2間以上）の設置は禁止。ただし、着替え用の小テントは可能。
 - (5) 荷物の留め置きについて
 - ・ 指定された場所4箇所（売店301・売店302・売店304・売店306）に留め置きできる。各校譲りあいをお願いする。
 - (6) 補助競技場の各校待機場所は特に指定しない（フリー）。
 - (7) 補助競技場からの地下通路や地下通路周辺および室内走路での場所取りを禁止する。
 - (8) 開場前の場所取りや並ぶことも禁止する。
 - (9) 着替え用テントは特に用意しない。

12. 一般注意事項

- (1) 競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ等に表示されている商標は、『競技会における広告および展示物に関する規定』に示すサイズ・個数を超えてはならない。これに違反したものについては主催者で処置する。
- (2) 応急処置その他健康上の問題が生じた場合は、本部(医務室)に連絡して処置を受ける。医務室は、本競技場1F大会本部近くに設置している。なお、競技会中の傷害などの応急処置は主催者側で行うが、応急処置後の通院等における治療は本人負担とする。発熱等の内科的症状については各校で対応すること。
- (3) 更衣室は本競技場1Fに設置している。第1ゲート（400mスタート側）から入館すること。なお、更衣室は更衣のみに使用すること。更衣後の荷物は各自で管理すること。
- (4) 大会期間中の貴重品の保管は各自で行うこと。盗難にあってもその責任は負わない。
- (5) 各チームの横断幕は、1層目スタンド（3階コンコース）における両サイドスタンド上段、バックスタンド中段もしくは上段の手すりに設置することができる。スタンドを含む競技場内での応援用のぼり・旗等も設置できる。強風などにより飛ばされないように確実に固定する。ただし、主催者により移動や撤去をお願いする場合がある。
- (6) 配送した棒高跳用ポールは、（第3ゲート付近）で保管している。競技終了後は正面エントランス奥で保管する（輸送の手続きはTIC）。
- (7) 集団応援はサイド・バックスタンドで認める（メインスタンドでの集団応援は禁止）。ただし、スタンド最前列に立っての応援は禁止する。集団応援をする際は競技に支障のあるような応援はしないこと（特にフィールド競技の実施付近など）。
- (8) ゴミは1日ごとに各校、持ち帰ること（留め置きはしない）。大会期間中、責任を持ってゴミの処理を行うこと。

13. 基本的な感染対策について（一般社団法人全国高等専門学校連合会より）

基本的な感染対策は重要であるため、下記に基本的な感染対策の考え方等を示し、確認、留意をお願いする。

- (1) マスクの着用は、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とする。
- (2) 手洗い等の手指衛生や換気については、基本的感染対策として引き続き有効なため、励行を推奨す

る。

- (3) 以下いずれかの目安に該当する「体調不良者」は、競技会への参加を見合わせることを推奨する。
- ・息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
 - ・重症化しやすい方（基礎疾患を有する人等）で、発熱や咳などの比較的軽い風邪症状がある場合
 - ・比較的軽い風邪症状が続く場合

14. TIC（競技者案内所）及び学校受付について（兼務）

(1) TIC（競技者案内所）について

- ・TICは第4ゲート付近に設置する。学校受付も兼ねる。
- ・開設時間は7:30~18:00とする。これ以外の時間については大会総務に問い合わせること。
- ・各種問い合わせ、抗議と上訴の受付、落し物等の取り扱い。
- ・プログラム訂正の申し出は、学校受付時に配布した封筒内「プログラム訂正用紙」に記入し、TICに提出する。
- ・ポールの受け渡し及び輸送手配。

(2) 学校受付について

学校受付も第4ゲート付近で下記の時間帯で行う。

- ・8月25日（金）12:00~18:00
- ・8月26日（土）7:30~18:00
- ・8月27日（日）7:30~12:00
- ・撮影許可証の申請、配布。

大会総務(本部) 長岡高専 江田 携帯番号 080-5507-0940

病院先 新潟市民病院 新潟市中央区鐘木463-7 Tel.025-281-5151

※デンカビッグスワンスタジアムより2・5km程度の距離

新潟中央インター付近

15. 観戦における諸注意

- (1) 入退場は Wゲート と Nゲート のみ (図参照のこと)。
- (2) 撮影 (写真・ビデオ等) に関するお願い
以下のとおり盗撮等迷惑撮影防止に関する協力をお願いする。

写真・ビデオ撮影に関するお願い

～盗撮等迷惑撮影防止に関する協力～

- 競技者本人および保護者の了解がない撮影を禁止する。撮影を希望する場合、申請が必要である。学校受付 (TIC) で申請すること。
- 許可証を常に持参して (首に掛けて) 撮影すること。
- ただし、各参加校の監督およびコーチや学生等は、学校名がわかる服装での撮影のみ認める。
- 以下の場所での撮影・行動を禁止する (重点警戒撮影方向)
 - 各種目のスタート後方および前方からの撮影
 - 走高跳, 走幅跳, 三段跳, 棒高跳の助走後方・着地前方からの撮影
 - 走高跳, 棒高跳マットに向かった正面からのクリアランス動作中の撮影
 - 投てき種目における選手の正面からの撮影
 - 競技者がスタート準備や試技待ちしている間など, 準備を行っている際の撮影
 - 通路及びスタンド以外での撮影
 - 競技の観戦とは全く関係のない目的での撮影、身体の一部を拡大した撮影

<申請が必要な撮影機材>

一眼レフカメラ、ミラーレンズカメラ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、ウェアラブルカメラ、アクションカム (CCD カメラ・Go-pro カメラを含む)

- 競技者等に著しく迷惑をかける行為であると主催者が判断した場合は、速やかに警察及び関係機関に連絡します。また、上記規則を守らなかったことによるトラブルについては、該当校の顧問に対応をしていただきます。
- 不審な行動をする人物を見かけた際は、近くの役員に声を掛けること。

<例外事項>

表彰時のみ、メインスタンド最前列の通路での撮影を認める。ただし、撮影の際は、周囲の方の迷惑にならないように留意すること。表彰終了後は速やかに移動すること。